

虚辞の「ない」の顕現に関する認知言語学的考察
— 「Vして {くれないか/もらえないか} {心配 / 不安} (だ)」の場合—

森 貞 (福井工業高等専門学校)

1. はじめに

「{心配/不安} だ」のカ従属節には「ない」が顕現する場合があります、その「ない」を虚辞とする記述が見られる。

(1) ここで考察したいのは、いわば談話構造のなかで虚辞否定となると思われるつぎのような現象である。

(42) ナイカ

c. 寒くて、風邪をひかないか心配だ。

(加藤 (2011: 147))

また、仏語の文法書・辞書の多くが、虚辞の *ne* の説明に関連して、その訳語 (例: *J'ai peur qu'elle (ne) pleure.* 「彼女が {泣くのではないかと} /泣かないか} 心配だ。」) に顕現する「ない」を虚辞として扱っている。

(2) *J'ai peur qu'il (ne) pleuve.*

雨が降るのではないかと心配だ。

Je crains qu'il (ne) soit malade.

彼が病気ではないかと心配だ。

この *ne* は「虚辞の *ne* 」と言われるもので、否定の意味はありません。虚辞の *ne* は、この例のように主節が「心配」をあらわす動詞のときに従属節内で用いられます。日本語でも同じような言い方(「～ではないか」)をするから、なぜ虚辞の *ne* が用いられるかはなんとなく理解できますね。しかし、話し言葉ではしばしば省略されます。 (大木 充他 (2020))

他方、「～ないか」・「～のではないか」に関して、以下のような記述もある。

(3) 日本語記述文法研究会編 (2003) は、否定疑問文「～ないか」は、(2)「寒くないですか? (否定疑問文) —のような「質問」の用法を持ち、そのほかに話し手の感情を表す用法もあるとする。話し手の感情を表す用法とは、その事態の実現に対する願望や不安といった感情が否定疑問文によって表されるものである。(6)肝心なときに、間違えてしまわないか、心配だなあ。

(張 (2008: 19-20) 加筆あり)

(4) 「～のではないか」は、「ある判断への傾きをもつという否定疑問文の機能が固定化した形式」⁸⁾で、日本語文法では「モダリティ」という範疇に分類される表現形式である。

脚注: 8) 日本語記述文法研究会 (2003) 『現代日本語文法④』くろしお出版。(尹 (2021: 21))

本稿では、「{心配/不安} だ」のカ従属節に顕現する「ない」の正体を明らかにするとともに、

「V して {くれない/もらえない} か {心配/不安} だ」(本来は、「V して {くれる/もらえる} か {心配/不安} だ」が通常の表現)における「ない」の顕現に関わる認知プロセスを明らかにする。

2. Desirability の概念を導入した分析

当該表現を Desirability の観点から分析したものが、下記の(5a)(5b)である。

- (5) a. いつもと同じ時間に家を出たのだが、思ったよりも道が混んでいたなので、遅刻するのではないか (と) {心配/不安} だったが、何とか間に合った。
・【遅刻する】は話者 (概念化者) にとって Undesirable[\neg DE] な事態。
- b. いつもと同じ時間に家を出たのだが、思ったよりも道が混んでいたなので、遅刻しないか {心配/不安} だったが、何とか間に合った。
・【遅刻しない】は話者にとって Desirable[DE]な事態。

これを一般化すると以下のように記述される (P = p (肯定命題 / \neg p (否定命題))。)

- (6) a. 「P ではないか (と) {心配/不安} だ」中の P は話者にとって \neg DE な事態。
b. 「P か {心配/不安} だ」中の P は話者にとって、DE な事態。

(6)の記述から、「{不安/心配} だ」のカ従属節に顕現する「のではないか」中の「ない」(この「ない」はモダリティ表現 (「のではないか」)の構成要素) および「P か」における P 内に生じている「ない」(この「ない」は否定命題の構成要素)は虚辞ではないと結論付けることができる。

他方、(6b)と以下の(7)(8)を勘案すると、(9)-(12)の「V して {くれない/もらえない} か {心配/不安} だ」という表現における「ない」は虚辞と見なすべきである (本来の (標準的な) 表現は、「V して {くれる / もらえる} か {心配/不安} だ」)。

- (7) 「(し) てくれる」は【話者が行為者の (話し手に対する) 行為を自分 (話者) にとって好都合 (恩恵) であることを認めている】ことを示す。 (高見・久野(2002)、金(2009))
- (8) 「(し) てもらえる」は【主体がその事態 (の実現) を期待している】ことが含意される。 (遅(2010)、大場(2014))。

- (9) 正直、母が続けて使ってくれないか心配だったので操作が簡単なのはとてもありがたかったです。

<https://www.amazon.co.jp/gp/customer-reviews/R2TAJJB70QGDGM?ASIN=B082SQX6TD>

- (10) 赤トンボ(アキアカネ)が集団で避暑に遣って来ました。冷夏なので来てくれないか不安でした。

<http://www.ginrei.co.jp/lately/190710.htm>

- (11) メーカー保証やあんしん保障バックライトなどで対応してもらえないか、心配になります。

<https://bbs.kakaku.com/bbs/J0000031668/SortID=23433714/>

- (12) 国民が一番望むことは、この国に生まれて良かったと思い、安心できる人生を送ることだ。年金は生活していくのに足りない金額で、それももらえないか不安だ。<東京新聞 2010.8.30

夕刊>

<http://oshimahakkou.blog44.fc2.com/blog-entry-740.html?sp>

3. インターネット検索 (検索日 : 2023/10/04)

以下に、インターネット検索の統計結果を示す。

表 1

~てくれるか心配 (だ)	~てくれないか心配 (だ)
127 (94.1%)	8 (5.9%)

表 2

~てくれるか不安 (だ)	~てくれないか不安 (だ)
115 (95.8%)	5 (4.2%)

表 3

~てもらえるか心配 (だ)	~てもらえないか心配 (だ)
116 (92.8%)	9 (7.2%)

表 4

~てもらえるか不安 (だ)	~てもらえないか不安 (だ)
170 (95.5%)	8 (4.5%)

表 1~表 4 では、「ない」顕現の割合が極わずかであることから、「誤用」と判断する向きもあるが、次節の言語感覚調査の結果をみると、無下に「誤用」と見なすことはできない。

4. 言語感覚調査

以下に事例(URL は省略)とそれに対する言語感覚調査 (Forms 利用、158 人[16~18 歳]、2023 年 2 月実施) の結果を示す。

(13) お子さんが食べてくれないか心配なときは、14 日間の返金保証があるので、とりあえず頼んでみるのがおすすめですよ。

○ 76 (48%)	△ 67 (42%)	× 15 (10%)
------------	------------	------------

(14) 交際相手と年齢が離れていると、結婚をしたい時期が合うのか、彼氏の両親が認めてくれないか不安になります。

○ 60 (38%)	△ 75 (47%)	× 23 (15%)
------------	------------	------------

(15) 2018 アメトーク大賞新人賞に輝いた宮下草薙・草薙航基は、「中退だと病院でちゃんと診てもらえないか心配」と考えてしまうネガティブ発言を。

○ 86 (54%)	△ 52 (33%)	× 20 (13%)
------------	------------	------------

(16) 差別や偏見により十分に行政に対応してもらえないか不安。(同志社大学立木研究室 2019)

○ 71 (45%)	△ 70 (44%)	× 17 (11%)
------------	------------	------------

5. 意味構造図を援用した分析

(6)の内容および「Vして {くれない/もらえない} か {心配/不安} だ」における虚辞の「ない」の顕現の認知プロセスは、【コントロールサイクル】(Langacker(2002, 2004, 2009))に「{p/ ¬p} か (どうか)」の様々な用法を統一的に説明するために提案した【シーソーモデル】(森 (1990, 1994))を組み込んだ意味構造図を提示することで説明可能である(2つの楕円の間に【シーソーモデル】のシーソー。Cは概念化者 (Conceptualizer)で、FはCの(当該事態に関わる)心的領域 (field)。DEはCにとって Desirable な事態の領域であり、¬DEはCにとって Undesirable な事態の領域(集合論的には、Field 内において DE 領域以外はすべて¬DE 領域であるが、表記の便宜上、¬DE 領域を別途指定していることに留意されたい)。DE 領域内にCがあるのは、DE 領域は【コントロールサイクル】の DOMINION (C's conception of reality)領域に相当《好ましい→real になってほしい》するため)。

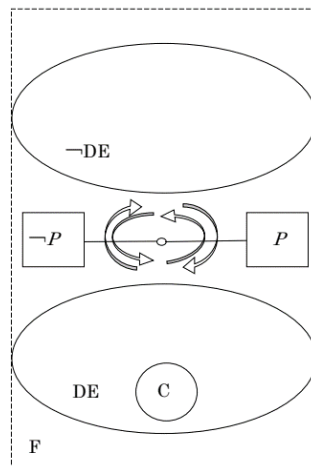


図 1: Base

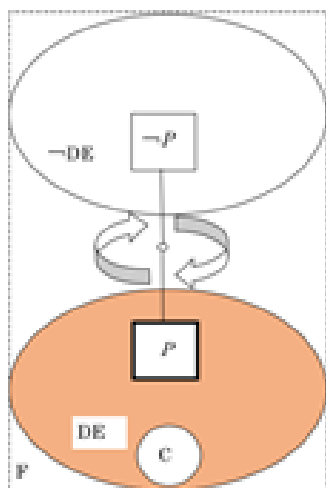


図 2: p か {心配/不安} だ

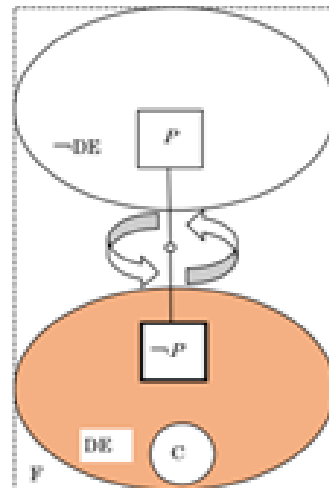


図 3: ¬p か {心配/不安} だ

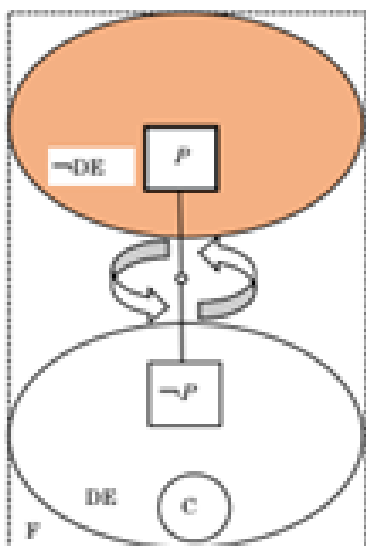


図 4: p のではないか{心配/不安}だ

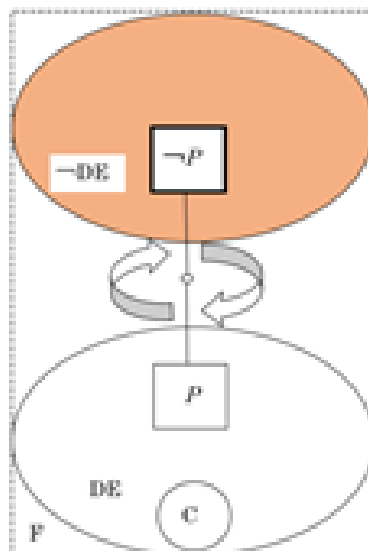


図 5: $\neg p$ のではないか{心配/不安}だ

虚辞の「ない」、は、「(し) てくれる」「(し) てもらえる」の使用時に活性化されているはずの) DE 領域から \neg DE 領域へのプロファイル・シフトが生じている場合に出現すると考えられる。そして、このプロファイル・シフトは \neg DE 領域を活性化させるトリガー表現が共起している場合に起こりやすいことが予測される。

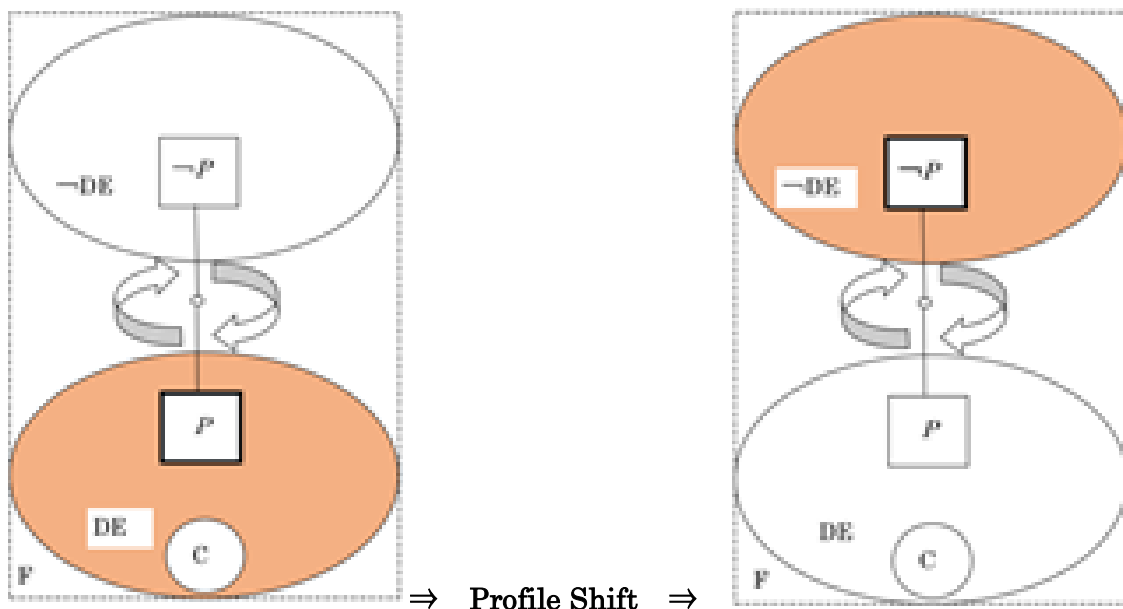


図 6: 虚辞の「ない」が出現する場合

以下の言語感覚調査 (Forms 利用、191 人[17~18 歳]、2023 年 7 月実施) の結果 (特にクロス集計) は上記の予想を支持するものである。

(17) 貸したお金を、約束した日に、返してもらえないか {不安・心配} だ。

○ 47 (24.6%)	△ 81 (42.4%)	× 63 (33.0%)
--------------	--------------	--------------

(18) あいつ、まだ仕事が決まっていないみたいだから、貸したお金を、約束の日に、返してもらえないか {不安・心配} だ。(波線下線部はトリガー表現)

○ 95 (49.7%)	△ 63 (33.0%)	× 33 (17.3%)
--------------	--------------	--------------

表 5 : [[17] – [18]] のクロス集計

【△-○】 + 【×-○】 + 【×-△】	79 (41.4%)
【○-○】 + 【△-△】 + 【×-×】	99 (51.8%)
【○-△】 + 【○-×】 + 【△-×】	13 (6.8%)

6. おわりに

本稿では、Desirability の概念を導入して、「{心配/不安} だ」のカ従属節に生じる「ない」の正体を明らかにするとともに、「V して {{くれないか/もらえないか} {心配 / 不安} (だ)」における「ない」の顕現には、**DE 領域から一DE 領域へのプロファイル・シフト**が関わっていることを明らかにした。

主要参考文献

〈和文〉

- 大木 充他 (2020) 『La Grammaire Active du Français 三訂版』朝日出版社。(ネット教材).
- 大場美穂子 (2014) 『『してもらえる (いただける)』の使用場面と意志性』『日本語と日本語教育』42, 慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター, 1-26.
- 加藤泰彦 (2011) 「ホーン『否定の博物誌』覚え書 (4) — 経済性効果 —」『上智大学外国語学部紀要』46, 129-152.
- 金 殷模 (2009) 「『てくれる』文の基本的意味と周边的意味との関係」『言語科学論集』13, 95-110.
- 高見健一・久野 暉(2002)『日英語の自動詞構文—生成文法分析の批判と機能的解析—』研究社.
- 遅 皎潔 (2010) 「『～てもらえる』文の働きかけ性」『言語科学論集』14, 39-51.
- 張 雅智 (2008) 「『～ないか』の用法」『言語科学論集』12, 19-35.
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版.
- 森 貞 (1990) 「カドウカ構文の生成要因について—シーソーモデルを利用した分析—」『福井工業高等専門学校研究紀要』47-65.
- 森 貞 (1994) 「『あるか (どうか)』と『ないか (どうか)』に関する認知言語学的考察」『国語学会平成 6 年度春季大会要旨集』152-159.
- 尹 盛熙 (2021) 「日本語における不完全な述語：情報内容の言語化について」『国際学研究』17-25.

〈英文〉

- Jin, Yanwei & Jean-Pierre Koenig (2019) “Expletive Negation in English, French, and Mandarin: A Semantic and Language Production Model”, In Christopher Piñón (ed.), *Empirical Issues in Syntax and Semantics* 12, 157–186, Paris: CNRS.
- Langacker, Ronald W. (2009) *Investigations in Cognitive Grammar*. Berlin/New York: Mouton De Gruyter.

<abstract>

**A Cognitive Linguistic Approach to Expletive Negation in Japanese:
A Special Focus on the Expression such as “*V shite {kure/morae}-nai-ka {fuan/shimpai}-da.*”**

Sadashi MORI

National Institute of Technology, Fukui College

Some researchers consider *nai* (not) in the *ka* subordinate clause of *{shimpai/fuan} da* (I am {worried/anxious}) shown in [1] and [2] to be an expletive.

[1] *Ame-ga furu-no-dewa-nai-ka (to) {shimpai/fuan} da.*

(I'm worried it will rain.)

[2] *Ame-ga fura-nai-ka {shimpai/fuan} da.*

(I'm worried it will rain.)

However, this paper argues that *nai* in [1] is not an expletive but a component of *no-dewa-nai-ka*, which is the modal expression conveying the possibility of the state, and that *nai* in [2] is also not an expletive but a component of the negative proposition, based on the following analysis using the concept of **desirability**: *Ame-ga furu* in [1] is an undesirable [\neg DE] situation for the speaker (conceptualizer) and *Ame-ga fura-nai* in [2] is a desirable [DE] situation for the speaker (conceptualizer).

On the other hand, since the version without *nai* is the standard expression, it is argued that *nai* in [3] and [4] is an expletive.

[3] *Ukeire-te kure-{ru/nai}-ka {shimpai/fuan} da.*

(I'm worried they will accept me.)

[4] *Ukeire-te morae-{ru/nai}-ka {shimpai/fuan} da.*

(I'm worried they will accept me.)

It is also argued that the above-mentioned *nai* occurs only when there is a profile shift from the DE region, which should be activated when *{kueru/moraeru}* is used, to the \neg DE region in the speaker's (conceptualizer's) mental field. It is expected that this profile shift is more likely to occur when trigger expressions that activate the \neg DE region co-occur.